

# ペットの共生発展を

2018 MESSAGE

年頭の挨拶・提言

あけましておめでとうございます。いつも、温かい理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。本年もどうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

2018年、戌年が巡ってきました。ペットの仕事に関わられる方には、社会に向けて、12年に一度のアピールできる機会を作りやすい年とも言えるでしょう。

六甲山カンツリーハウ

ス様と「ラボレーション開催」となった「りぶ・らぶ・ル」も、適正飼養や動物

にまるす・フェステイバ

ー」として、「犬の年」とい

う年になります。いつも、温かい理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

2018年、戌年が巡ってきました。ペットの仕事に関わられる方には、社会に向けて、12年に一度のアピールできる機会を作りやすい年とも言えるでしょう。

六甲山カンツリーハウ

ス様と「ラボレーション開催」となった「りぶ・らぶ・ル」も、適正飼養や動物



## 人とペットの絆を守る 「飼い主さんを支える社会」へ

公益社団法人 Knots (ノッツ)

理事長 富永 佳与子

達との生活の素晴らしさをお伝えしてきており、この春からのドッグランや様々な啓発の場面でも、「戌年」は活用されていくことでしょう。

このような節目の年に、は、後に考えれば、「あの年が転換点だったよね」と言えるような変化が起る年にすることがふさわしいのではないか。社会制度で考えれば、「飼い主飼養責任」と「譲渡制度」です。

これまで、飼い主が

飼養責任を果たせなくなり、家族である動物達を手放し、新しい飼い主に託すことを求められてきました。その未来は、特に飼い主さんの高齢化に伴う、「施設入所」などが原因で起こるため、高齢期に差し掛かると、動物達との暮らしそのものを諦めるという社会になってしまいます。

ここで立ち止まって考

えてみましょう。私達は、家族の一員や大切なパートナーとして、「飼い主さんとペットの絆」を社会に伝え、譲渡を含め、「絆を創る」ことを中心に努力を重ねてきています。

しかし、その創った絆を

「守ること」について、どのような努力をしてきたのでしょうか。

動物管理センター等の引き取り事由を見ると

頌春  
2018

き、最後の皆であるこの場所にこれだけの数があるのなら、その向こうにはどれだけの数の「大切な絆」を切り離された飼い主さんとペットが居られるのでしょうか。そして、それを身近に見た方は、動物達との暮らしを選択するでしょうか。

昨年、ペットと入居でなつたら、そこで終わりとなり、家族である動物達を手放し、新しい飼い主に託すことを求められてきました。その未来は、特に飼い主さんの高齢化に伴う、「施設入所」などが原因で起こるため、高齢期に差し掛かると、動物達との暮らしそのものを諦めるという社会になってしまいます。

これまで、動物との暮らしが始まってしまえば、「飼い主さんだけが頑張る」社会でした。

しかし、私たちは、「飼い主さんとペットの絆」に、もっと寄り添う仕事ができると思います。12年に一度の戌年、「飼い主さんとペットの絆をどちらかが命終えるまで守る事業」に目を向ける転換点の年になることを願い、年頭のご挨拶とさせていただ